

あ と が き

本書は、アジア経済研究所で実施した2012年度機動研究会『「アラブの春」後の中東地域秩序の再編』の成果である。本研究会は、2011年度に実施した機動研究会（『「アラブの春」とアラビア半島の将来』）の後継研究会として企画された（2011年度研究会の最終成果は http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2012_arab.html に掲載）。その目的は、「アラブの春」が今後の地域バランスに与える影響を考察することであった。「アラブの春」は、国内の政治・経済政策だけでなく、地域秩序にも大きな変化をもたらす契機となったのではないか。その兆しはすでに各国の対外政策および国内改革の模索過程に現れているのではないか。そのような問題意識に基づき、本研究会では、中東の主要国について政治と経済の面から各国の対外政策および国内改革の動向を検討した。

2012年8月に研究会を立ち上げて以降、半年間で計5回の会合をもち、「アラブの春」以降の中東諸国の動向について議論した。その結果、国による程度の差はあるものの、地域バランスの変更につながるような動きが顕在化しつつある現状が明らかとなった。その一方で、シリア情勢の混迷は「アラブの春」後の地域秩序の行方を不透明にしていること、また各国は現在も政治・経済改革を模索しており、国内改革を優先する国もあることが確認された。

研究会での議論をふまえ、本書では、「アラブの春」後の地域秩序の均衡点を展望するのではなく、「アラブの春」によって中東諸国の対外政策および政治・経済運営がどのように変化したのか、そしてその変化は地域バランスにどのような影響を及ぼし得るのかを論じた。アメリカによる民主化圧力や原油価格の高騰による高成長のなかで形成された2000年代の地域バランスは、「アラブの春」という内からの圧力によって、どのように変動しつつあるのかに注目した。各章での議論が今後の中東地域バランスの行方を考えるうえでの材料のひとつとなれば幸いである。

2013年6月
編者